

令和元年度 学力向上アクションプラン 横浜市立義務教育学校霧が丘学園（中学部）

1 学校の状況と地域の実態

- (1) 保護者・地域は学校の教育活動に協力的である。特に保護者は学習に対する関心が高く、学校評価の結果なども参考にして授業実践に取り組みたい。
- (2) 学力については市の状況と似ており、標準的な学力の学校といえる。
- (3) 生徒の意識については、学習意欲はどの学年も高く、学校生活への満足度も高いという結果が出ている。評価や進路が大きく関わってくる高学年に、学習活動としての充足感を持つことができるように指導法や評価法の工夫・改善に取り組みたい。

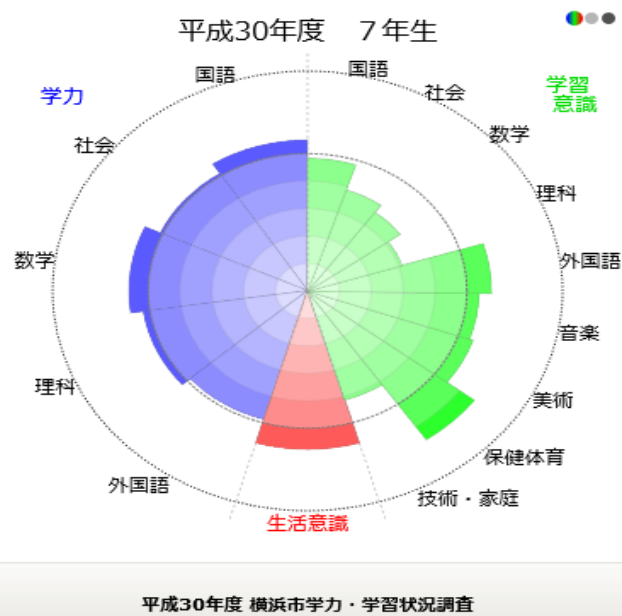
2 今後3年間の方向（中期学校経営方針（4年目））

学力向上に関する指導の目標・方針（令和元年度末の姿）

- 学習の成果と課題を分析し、学習状況調査の結果を参考に、小中学学習指導部会、教科会等を核として子どもの学力向上に取り組んでいます。
- 小中学校共同の授業研究会を通じて、思考力や表現力の育成に向けた授業力の向上、授業形態の工夫、指導スタンダードの設定に取り組んでいます。

3 横浜市学力学習状況調査等からの平成30年度の実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析 現8学年

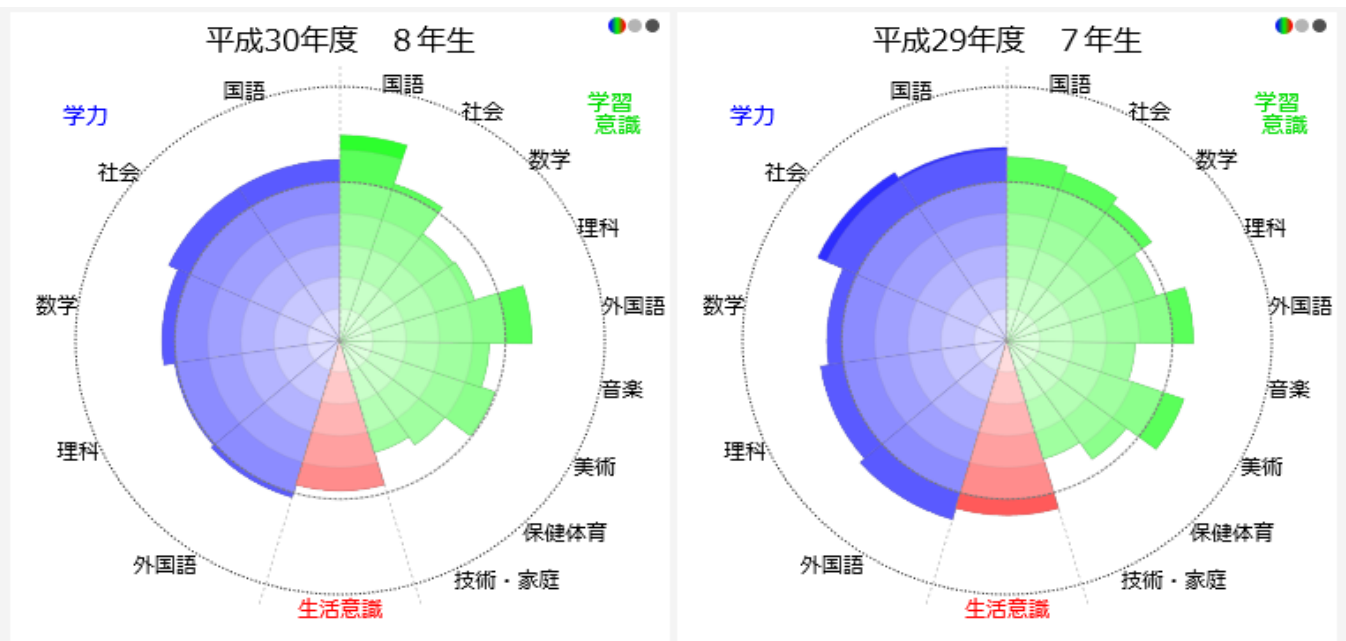


学力は、英語を除いて横浜市の平均を上回った。基礎と活用で分けるとどの教科も基礎学力は高い傾向である。特に数学と国語では横浜市の平均を大きく上回っている。国語では「話す・聞く」「書く」能力の観点が大変高く、日々の授業での工夫や反復学習が実を結んでいると考えられる。しかし、「読む」能力の観点が横浜市の平均を唯一下回っており、教科での今後の学習への工夫や重点課題としてほしい。数学では「見方や考え方」の観点が横浜市の平均を大きく上回っていた。また、「知識理解」「数学的な技能」も高い結果が出ているので、今後も少人数学習の充実や補修などの取り組みを継続してもらいたい。社会では、「思考判断・表現」が横浜市平均を大きく上回っていた。日々の授業での事象に対する理解の充実が実を結んでいると考えられる。しかし「技能」「知識理解」が横浜市の平均を下回っていた。資料の読み取りなどの学習の充実を今後の課題としてもらいたい。理科では、「技能」が横浜市平均を大きく上回っていた。しかし、「知識理解」が横浜市平均を下回っていたので今後の授業で改善してもらいたい。外国語では、「言語に関する知識」が横浜市平均を大きく下回っていた。外国語はアクティブな学習も叫ばれているが、反復練習や教え込みの学習も今後考えてもらいたい。

学習意識に関しては各教科の差が大きく表れた。しかし意識が低い教科でも試験の点数はとれていたり、意識が高い教科でも試験の点数がとれなかったりしている現状が分かった。授業の工夫や教師の魅力により、さらなる学習

学習意識に関しては各教科の差が大きく表れた。しかし意識が低い教科でも試験の点数はとれていたり、意識が高い教科でも試験の点数がとれなかったりしている現状が分かった。授業の工夫や教師の魅力により、さらなる学習

意識を高めることで現 8 学年はさらなる学力向上につながると考えられる。



平成30年度 横浜市学力・学習状況調査

(1) 学力の概要と要因の分析 現 9 学年

学力は 5 教科全ての教科で横浜市の平均を上回る結果となった。基礎と活用で分けるとどの教科も基礎学力は高い傾向である。しかし、7 学年のときと比べると全ての教科で下回っている。学習内容の難易度によることも考えられるが学習意識の低下との関連も考えられるだろう。国語では、「知識理解技能」「話す聞く」能力の観点が横浜市平均を大きく上回っていた。国語科への意識調査も一昨年から大きく上がっており、日々の授業の取り組みや工夫により生徒の関心を引き付けたことで大きく学力を伸ばしたと考えられる。社会では、「知識理解」能力の観点が横浜市平均を大きく上回っていた。プリントを用いた反復学習の取り組みが学力の向上につながったと考えられる。しかし「思考判断技能」能力の観点は横浜市平均とほぼ同じであったので、考える力を向上させる工夫を今後してもらいたい。数学では、全ての観点で横浜市平均を上回っていた。基礎基本の定着を図りそれを活用させる場面を意図的に増やしたことが学力向上につながっていると考えられる。理科では、「技能」能力の観点は横浜市平均を上回っていた。単元によってムラがあったのが気になったのでどの単元でも確実に習得できるようにしていけるとよい。「知識理解」能力の観点では横浜市平均を下回っていた。どの単元でも履修した内容が身につけていないことがわかったので今後の課題としたい。外国語では、「聞くこと」能力の観点が横浜市平均を上回った。日々の授業でリスニングに力を入れ、またアクティブラーニングを取り入れてきて英語に親しむ成果がでてきている。しかし、「読むこと」「言語に関する知識」が横浜市平均を下回っていた。今後の指導に役立ててほしい。

学習意識が国語、英語、美術の 3 教科のみ横浜市平均を上回っていた。3 教科と少ないことが気になる。自分の教科を好きになってもらうような教師側の工夫や指導方法が今後重要になると考える。好きな教科が増えれば学力向上につながるの間違いはないと考える。

4 令和元年度目標と具体的方策

令和元年度目標

共同授業等の機会を活用して授業改善を行い、「考える力」を伸ばす指導の実現をめざす。また小学部と中学部で指導のスタンダードを共有することで児童生徒が安心して学習参加できるようにする。

(1) 学校組織としての共通の取組み

- **小中9年間の学びを見通した学びの充実**
 - ・義務教育9年間を見通した学習内容のつながりや指導方法の連続性を意識した授業の工夫をおこなう。
 - ・小中共同授業研修をおこない、小中がそれぞれの指導方法を理解し、共有していく。
 - ・生活習慣や学習習慣の在り方について、9年間を通した「生活スタンダード」「学習スタンダード」を提示し、家庭の協力を得ていく。
- **個に応じた指導の充実**
 - ・算数・数学において習熟度別少人数指導（TT）を実施し、基礎・基本の定着を図る。
 - ・英語において少人数指導・TT指導を実施し興味・関心を高め、コミュニケーション能力の向上を図る。
 - ・長期休業中に全ての教科で「学習支援講座」を開催し、個々の生徒の能力や希望に応じた学習ができるようにする。
- **学校と家庭・地域の連携**
 - ・基本的な生活習慣、家庭学習の習慣、読書への取組など、学力を支える基盤となる事柄について保護者と学校の共通理解を図りながら、その定着を目指すため、学校だよりなどで発信する。
 - ・家庭との連携による学習習慣の確立を図る。（目安時間の提示 7～9学年×10分）
- **学力向上アクションプランの検証と授業評価・学校評価**
 - ・授業評価を核にしなが、学校評価および学力・学習状況調査の結果をもとに、学力向上アクションプランの検証をするとともに、次年度の指導計画の改善に活用する。
 - ・学校運営協議会を活用し、第三者による学力向上アクションプランとその成果に対する評価を取り入れ、より一層の改善を目指す。

(2) 教科・総合等としての取組み

○ 「考える力」を伸ばすための指導の工夫

国語

- 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成や材料の活用の仕方などについて意見を述べ、助言できるような能力の向上を図る。
- 話し合い活動を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。

数学

- 基礎・基本を大切に、身の回りにある数学的な事柄に興味をもち、自ら問題解決する学習を進める。

音楽

- 表現・鑑賞両領域において生徒同士のコミュニケーションを高められる活動を取り入れる。

保健・体育

- 学習カードの目当て学習の推進とグループ活動を積極的に取り入れる。

技術・家庭

- 知識と技術を習得し、考えて実践的に自ら問題解決できる題材を設定する。

特別活動

- 表現活動を重視し、生徒主体の学校運営を目指し、意欲的に取り組む姿勢を養う。

社会

- 討論を取り入れ、事実をどう解釈するのか、内容を深める授業を行う。
- 基本的事項を定着させるために小テストを実施

理科

- 生徒個々に自分なりのイメージをもたせ、その上で、学び合い活動を通してイメージを修正させていくように展開する。

美術

- 自ら興味・関心をもって取り組める題材を工夫する。
- 鑑賞活動などを通して自分の思いを伝え、良さや美しさを感じる心を育てる。

外国語

- インプットの量を増やし、基礎学力の定着を図る。
- 自己表現する場面を多く設定し、表現力を養う。

総合的な学習の時間

- 一人ひとりが自ら課題をもち、よりよく問題を解決し自己の生き方を切り拓いていく学習をすすめる。

個別支援学級

- 個別の指導計画に基づき、授業の形態や学習集団の構成を工夫して指導の充実を図る。